



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

コロナ禍の中からの出発

歯学部長 榎 宏太郎

ご存知のように、今年の2月に入り緊迫感を増したコロナ感染の拡大は、4月には政府の緊急事態の宣言までに至っております。そのため、3月の卒業式は縮小して開催することが出来ましたが、4月初めに予定されていた入学式や入寮式は中止されました。また、海外からの留学生の受け入れや実習等の交流も中止しております。



高齢者や持病のある方々が感染すると生命に関わるため、我々教職員や学生も日常生活には十分な注意が必要です。

このコロナ禍の中、歯学部では、2月から診療と教育の両面で、様々な対策を講じております。

歯科病院では、防御の徹底を図りながら診療を縮小して感染の発生を抑え込んでおります。

また、学生教育においては、自宅待機という過去に誰も経験したことのない状況下で、特別編成されたチームが試験を重ねました。薬学部の先生方にも貴重な教えを頂き、その情報を基に全講座が緊急でWEBによる講義コンテンツを作成して、4月20日から配信が開始されました。ちょうど歯学部では教科書の購入を勧めていたため、大学より配送費が拠出され、自宅学習に間に合わせられたかと思われそうです。

学生の健康調査も、より完全性を期して指導担任によるチェックから学生部によるアンケート方式のチェックシステムへと変更されますが、学生とのメールのやり取りを通じて自己学習へのアドバイスや悩み事の相談は従来通り指導担任の先生方をお願い致します。

4月23日に開催されたコロナ感染対策学務委員会では、1)各学年とも5月中は登校を中止し、WEB講義とする。2)富士吉田は前期一杯を中止し、全てWEB講義とする。3)臨床実習も当分の間は中止する(期間は未定)。などが決定されました。

刻々と状況が変化するため、必ず大学のホームページをご覧ください。

『神は乗り越えられない試練を与えない』という言葉があります。

そして、我々は、ピンチをチャンスに変えなければなりません。

自宅学習が余儀なくされている状況を、アクティブ・ラーニングを進めるための機会にしましょう。このアクティブ・ラーニングは、文科省が学習指導要領に入れて注目されましたが、広大な領域の常に最新の情報を求められる医学系教育においても有効な手段になると考えられております。アクティブ・ラーニングが求められた背景には、産業界でも主体的に市場を開拓し新たな価値を見つけ出すような人材の需要が高まっていることや、拡大しつつある e-learning が一方通行過ぎて思考力やコミュニケーション能力を伸ばせるかどうか疑問視されていることが挙げられます。おそらく今後は、WEB 講義の中にも Debate や Role-play などの導入も模索されてくるでしょう。

しかし、本来の積極的・能動的学習とは、もっと原始的・基礎的なヒトという生物の“意欲”へ働きかけるべきものとも思われます。その鍵は、好奇心や興味の賦活にあります。

どこの大学にも見られない本学ならではの『楽しい』WEB 講義コンテンツを作りましょう。学生諸君の意見やアドバイスもどんどんお寄せください。

それがチャンスを生んでくれるのではないのでしょうか。



新型コロナウイルス感染症に対する歯学部への対応

教育委員長 飯島 毅彦

新型コロナウイルスの影響で歯学部の新学期を始められないという未曾有の事態が続いております。このような情勢でも大学は学生にできる限りの学習支援をしていきます。4月2日現在は、4月19日までの休講になっておりますが、この感染症の広がりレベルによってはさらなる開講の延期の可能性もあります。昭和大学全体の指針に基づきこの事態に対処すべく準備を進めています。まずは授業内容を学生に提示する必要があります。これはシラバスに授業のプリントを添付することで対応します。必要に応じて小テストをつけて双方向のやり取りも可能と考えています。次に考えることは講義をネットで配信することです。

授業はパワーポイントを使用することが多いと思いますが、パワーポイントの画像と話している講師の画像を交互に編集することが可能です。普通のPCで編集できます。実際に作ってみると簡単にできるのでこれから各講座で教材を作っていくことになるでしょう。授業再開の時期が今の段階ではわかりませんが、令和2年度の前期はかなりの時間の削減が見込まれます。上述の遠隔授業を駆使して授業時間が短縮されても十分な学修が行われるには、学生自身が自分で学ぶアクティブ・ラーニングの習慣づけが必要です。アクティブ・ラーニングは歯学部の課題の一つですが、これを機に教員も学生も自ら学ぶ学修を普及することが望まれます。

新型コロナウイルス感染症に対する歯科病院への対応

歯科病院 副病院長 代田 達夫

2019年12月に中国の湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はわが国でも急速に増加し、緊急事態宣言が発令された現在も、感染拡大に歯止めを掛けることは出来ていません。COVID-19の経過には7日間程度の潜伏期を経て感冒症状(発熱、咳、咽頭痛など)、倦怠感に加え嘔吐、下痢などの消化器症状を呈することもあり、これらの症状が約7日間持続するという特徴があります。しかし、その8割は軽症あるいは無症状な、いわゆる「見えにくい感染症」であると言えます。このような患者が歯科治療を受けた場合には飛沫やエアロゾルによる院内感染が発生する危険性が高いのです。そこで1)診療体制を縮小して緊急性のない治療は延期する、2)病院職員全員の発熱、体調不良の有無などの健康状態を毎日確認する、3)標準予防策を徹底する、4)患者の健康状態を毎回確認し、感染あるいは濃厚接触が疑われた場合には治療を延期する、等の感染予防対策を行っています。今後の課題は縮小させている診療体制を院内感染に配慮しながら元に戻して

行くことですが、現在もマスクだけでなくガウンなどの感染防護具を手に入れることが困難な状況が続いています。また、現状では歯科病院を受診した患者に対してPCR等によるスクリーニングは出来ません。したがって、国内の感染状況を見極めて現状に即した感染予防対策を行い、慎重に診療を再開して行きたいと考えています。

上條賞を受賞しました

歯科臨床研修医 家泉 裕香

この度はこのような栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。また92名の友人たちと38回生の一員として卒業できましたことを大変喜ばしく思っております。

親身にかつ熱心に教育してくださった先生方、2年次編入した私を快く受け入れ苦楽を共にしてくれた同級生、困ったときの

確かな助言をくださった先輩方、奨学金や進路の件でいつも助けてくださった学生課の方々、国際的な学びのチャンスを沢山与えてくださった国際交流センターの皆様、アルバイト先としてお世話になった旗の台図書館員の皆様、そして歯学部での生活を理解し応援してくれた家族、5年間を振り返ると本当に多くの方の支えがあったからこそ充実した学生生活を送ることができたのだと改めて強く感じています。

授業以外にも、2・3年次には生化学教室にて研究の基礎を教えて頂き、4年次にはアジア太平洋歯科学生会議(APDSA)にてその研究発表・論文発行を行う機会も頂きました。5年次にはマダガスカル医療協力に参加することで日本の医療技術を客観的に捉えることもできました。医療人、歯科医師として必要な学び以上の貴重な経験を数多くさせて頂いたことも大変有難く思っております。

6年次には、先生方が知識を的確にまとめた丁寧な授業をしてくださり、同級生とは互いに支え合い一丸となって国家試験に臨むことができました。

最後になりますが、在学中ご支援頂きました皆様に改めて心より御礼申し上げます。歯科医師として昭和大学の名に恥じぬよう今まで以上に精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記 歯科薬理学講座 唐川 亜希子

新型コロナウイルスに大学が一丸となって立ち向かう日々が続いております。皆様どうぞご自愛くださいませ。

